# 遠州綿紬の着物で寺社めぐり

撮影協力／龍潭寺

## 涼しげな綿紬の着物で過ごす夏の休日

四季折々に表情を変える庭園を抜け、荘厳なる本堂へ。神聖なる空気と静寂な時間が流れるお寺には、着物がよく似合う。コントラストを楽しむ自分、お気に入りの着物を着た自分がここにある。

疲れた体と心をリフレッシュしたいとき、私はいつもここを訪れ、少しだけ特別な日常を感じながら、凛とした気持ちを思い起こしている。

日差しのまぶしい7月。選んだのは「遠州綿紬」の着物だ。やさしい風合いと肌なじみの良い淡い色味がしっくり馴染んでくるのがよくわかる。今日は帯や日傘も遠州綿紬でそろえてみた。私らしい、浜松・夏のコーディネートの完成である。

さらりとした肌触りが心地良い綿紬の着物は、一年を通して快適に着られる。

洋服のように自宅で簡単に洗えるのもありがたい。

袖を通すたび、私の身体の一部に近づいていくような、そんな着心地に喜びを感じている。

さて、次の休日は、どのお寺へ行こうかな。

教えて

## 遠州綿紬とは？

**江戸時代から浜松に伝わる、伝統織物「遠州綿紬」。どこか懐かしく、温かな風合いは、現代に受け継がれている。**

綿素材を中心とした「遠州織物」は、静岡県西部で作られる織物の総称。そのひとつである「遠州綿紬」は、遠州織物のデザインのルーツといわれる木綿の織物のこと。無地紬やかすり紬など種類は豊富だが、最もポピュラーなのは美しいストライプ模様である。

温暖な気候と豊かな自然に恵まれた遠州地域は、江戸時代中期に良質な綿の産地として栄え、遠州木綿が発展した。なかでも独特な縞模様（遠州縞）の織物は、庶民の間で〝粋〟とされ、着物や小物として生活に根付いていった。昭和初期まで繁栄を極めたが、その後、海外製品に押され生産量は低迷。織屋も減少し、衰退の一途をたどっていた。

しかし、遠州綿紬の魅力を発信し伝統を残そうとする動きが2005年頃から活発になり、生産量は増加。近年ではカラフルな縞模様の生地や雑貨、アパレルが登場し、若い世代にも支持されるようになった。江戸時代からの製法を受け継ぎ、職人の手によって生み出されたぬくもりある風合いは、現代の生活にもすっと馴染み、暮らしに彩りを添えてくれている。

**遠州綿紬ができるまで**

1つの布が完成するまでの工程は8つ。
それぞれ分業で製造される形態は今も変わらない。

| | |
|---|---|
| 〈綛(カセ)上げ〉 | 綿糸をカセ(一周130cm程の糸の輪)の状態にする |
| 〈精練・漂白〉 | 糸の汚れや油分を抜き真っ白にする |
| 〈染色〉 | 必要な分量をそれぞれの色に染める |
| 〈糊つけ・乾燥〉 | 糸の毛羽立ちを防ぐために糊をつける |
| 〈管巻き〉 | カセ状から複数の管に巻き替える |
| 〈整経〉 | 管糸を何本も引き揃えタテ糸を準備 |
| 〈経通し〉 | タテ糸を織機の糸ガイド装置に通す |
| 〈製織〉 | 織り上げる |

昔ながらのシャトル織機を使用。あたたかみのある生地に仕上がる。

### 「遠州綿紬」のここが魅力

- やわらかな肌触りで肌にしっくり馴染む
- 日本の四季から生まれた「日本色」。深く穏やかな色合い
- 夏は涼しく、冬は暖かい。綿100%なのでお手入れがしやすい
- 使えば使うほど、味わい深い風合いに変化
- 着物、小物、インテリアなど、さまざまなシーンで使える

## 現代の織姫

遠州縞プロジェクト 小杉思主世（しずよ）さん

### 遠州縞を愛して40年。この魅力を広めたい

県の技術職員として、繊維の製品開発に長年携わってきた小杉さんは「繊維のプロ」。その知識と経験を生かし、2004年に「遠州縞プロジェクト」を仲間と立ち上げた。「遠州縞と出会ったとき、大胆な色使いとデザインに衝撃を受けました。こんな素敵な織物はなくしてはならないと思ったんです」。定年後、ボランティア活動の一環として本格的に活動をスタートさせた小杉さん。新たなグッズの開発・販売のほか、イベントやワークショップの開催、市内の学校での体験講座など、文化活動にも力を入れている。今後は海外進出も視野に入れ、世界に通用する地域ブランドにしたい、と意欲を燃やす。

**遠州縞プロジェクト http://www.enshujima-p.net/**

地元のデパートで開催した「遠州綿紬の飾り皿作り」。はぎれを使ったワークショップは、さまざまな柄に触れることができる貴重な体験だ。

湖北五山めぐり

## 今、注目の奥浜名湖へ

**2017年大河ドラマの舞台となる奥浜名湖エリアには、由緒ある名所旧跡が今も数多く残されている。なかでも、「湖北五山」と呼ばれる5つの寺院は、寺めぐりの人気スポットとなっている。**

### 摩訶耶寺（まかやじ）

奈良時代に行基菩薩によって開創され、1300年の歴史を持つ古刹。鎌倉時代初期の庭園は、日本を代表する中世庭園として知られる。

浜松市北区三ヶ日町摩訶耶421 ☎053-525-0027
時／9:00～16:30　休／8月10日、臨時休あり
料／大人400円、高校生300円、中学生200円、小学生以下無料
http://makayaji.web.fc2.com/

### 初山宝林寺（しょさんほうりんじ）

寛文4年（1664）に、明国の僧・独湛禅師によって開創された黄檗宗の寺院。明朝伝来の建築様式の仏殿と方丈は国指定重要文化財。

浜松市北区細江町中川65-2　☎053-542-1473
時／10:00～16:00　休／年末年始、臨時休あり
料／大人400円、中高校生200円、小学生以下無料
http://www.oubaku.org/shosan/

### 大本山方広寺（だいほんざんほうこうじ）

禅宗臨済宗方広寺派の大本山。東海屈指の名刹であり、境内には国指定重要文化財の釈迦三尊のほか、七尊菩薩堂や五百羅漢が鎮座している。

浜松市北区引佐町奥山1577-1　☎053-543-0003
時／9:00～16:00　休／無休
料／大人400円、中学生以下200円、未就学児無料
http://www.houkouji.or.jp/

### 大福寺（だいふくじ）

貞観17年(875)に名僧教待上人が開創。宝物殿「聚古館」には、国指定重要文化財、古文書・瑠璃山年録残編を所蔵。寺製の大福寺納豆も有名。

浜松市北区三ヶ日町福長220-3　☎053-525-0278
時／9:30～16:30　休／不定休
料／大人500円、中高生300円
http://daifukuji.sakura.ne.jp/

### 龍潭寺（りょうたんじ）

徳川譜代大名筆頭で活躍した井伊家の菩提寺として、千年の御霊を祀る寺。境内には、井伊直虎のお墓も。小堀遠州作の国指定名勝庭園も見もの。

浜松市北区引佐町井伊谷1989　☎053-542-0480
時／9:00～16:30　休／8月15日、12月22日～27日
料／大人500円、小中学生200円
http://www.ryotanji.com/